

平成22年4月15日発行・発売(毎月15日発行・発売)第40巻第5号 通算516号 昭和47年2月2日第三種郵便物認可

長谷川×モンティエル、迫り来る至高の戦い!

ボクシングマガジン

The Best Magazine For Boxing Fans

特別定価 **920円**
BASEBALL MAGAZINE 50%

No.516
MAY 2010

5

[完全詳報]

**パキヤオ、
クロッティにも完勝!**

&その超絶技巧を完全分析

[世界戦REVIEW]

**亀田興毅、王座陥落…
黒木健孝は世界奪取ならず**

決戦、迫る!

必見の「4.30ダブル世界戦」
巻頭大展望

我らが両雄はいかに闘うのか!?

WBC世界バンタム級タイトルマッチ

長谷川穂積 vs. フェルナンド・モンティエル

WBC世界スーパーバンタム級タイトルマッチ

西岡利晃 vs. バルヴェク・バンゴヤン

[世界戦PREVIEW]

**名城信男 vs. カサレス再戦
&内山高志、初防衛戦の行方**



最終回、王者の鬼気迫る連打で挑戦者が棒立ちに...

サウスボクスタイルから右腕を伸ばして王者の頭を押さえ、シャープな左ストレートをビシビシとヒットさせる。大橋がジリジリと入ってくれば、これをいなして左から右フック、さらに左アッパーを突き刺した。

「(下田は)3回までは世界レベル」と覚悟していた大橋は4回に加速する。ラ

●OPBF東洋太平洋スーパーバンタム級タイトルマッチ

拳史に残る壮 下田昭文が

“鬼神”大橋弘政の猛反撃しのき

ッシュを得意とするのをヒットすると、距離を縮めて連続打撃攻撃。だが、下田は右ボディブローで王者の動きを止めたスピードと連打の回転力で上回る下田は、タフな大橋の顔面、ボディに幾度となくシャープなブローを叩き込む。7回には王者の右目上を切り裂き、棒立ちにさせるシーンもあった。

意地と意地が激しくぶつかり合う壮絶バトルを制したのは下田昭文(帝拳=55.3kg)——。OPBF東洋太平洋スーパーバンタム級タイトルマッチ12回戦は、3月28日、愛知・名古屋市国際会議場で行なわれ、元・日本同級王者でWBC7位の挑戦者・下田が、チャンピオンの大橋弘政(HEIWA=55.2kg)と一進一退の攻防を繰り広げて3-0の判定勝利。1年5ヵ月ぶりにベルトを巻いた。敗れた大橋は初防衛ならず。

文●本間 暁 text/Akira Homma
写真●矢野寿明 photos/Toshiaki Yano

いったい、両者合計何百発のパンチを放ったのか。言葉にしてみると、その重みが軽くなってしまいそうな“壮絶”の一語。だが、これ以上にふさわしい文字が浮かんでこないのだ。勝者、敗者の明暗こそ分かれたものの、死力の限りを尽くした両選手には、ただただスタンディングオベーションを贈りたい。類まれな才能は誰もが認めながら、精神的な甘さを露呈し、2008年10月に日本王座から陥落した下田。不器用さを自認し、ボクシング愛を礎にコツコツと努力を積み重ね、昨年6月にロリー松下(カシミ)から大逆転で王座を奪取した無類のタフガイ大橋。両極端の二人の交錯は、挑戦者のアウトボックスでスタートした。

「序盤は相手の頭に気をつける」と公言していた下田は、



下田のシャープな右フックが強烈に大橋の顔面をこらえる

激闘王・大橋がいつ崩れてもおかしくないラウンドが続いたが、王者が常軌を逸した反撃を見せたのは9回。一見、愚直だが、その実、巧みに腕を折りたんで内外に打ち分けるボディ攻撃を取行。「打つと声を上げていたので効いていると思った」(大橋)

「ボディブローが痛かった」(下田)
連打の回転力では劣る大橋だが、ワン

チャンスにたたみかける術は、さすが9連続KO中の妙味。「いくら打ってもキリがない。近い距離で打ち合わなければダメだと思った」と下田の腹は据わった。

10回からは足を止めた大乱戦に突入。これはいわば王者の土俵でもあるが、下田はこの戦いに押し勝ってみせる。出血と腫れで顔面を真っ赤に染めた大橋のダメージが深刻だが、下田の腫れも目立ってきた。

そして迎えた最終12回。大橋が一瞬の隙を突いて、左右フックの5連打を下

田の顔面にズシンズシンと叩きつける。棒立ちとなり、揺れる挑戦者の体。だが、ここから下田も応戦し、終了ゴングが鳴るまで、両者のあくなき連打の応酬は止まらなかった。

判定は3ジャッジともに新王者誕生を指示。アメリカ長期合宿、メキシコでの試合を経て精神的に成長を遂げた下田は、身をもってそれを明確に証明した。と同時に、怪物的な心身を持つ大橋を跳ね返したことによって、今後に大きな財産となる太い筋金を備えたと思う。

そして大橋。限界をとうに超えている

絶バトル! 気迫のベルト奪取

3-0勝利 March 28/Aichi, Japan/ OPBF Super Bantamweight championship 12R
Akifumi Shimoda DEC. Hiromasa Ohashi

状態から湧き上がってくるパワーには、ただただ脱帽だ。敗れたとはいえ、決して下を向かないでほしい。

下田の戦績は24戦21勝(10KO)2敗1分。大橋の戦績は33戦21勝(15KO)9敗3分。

○下田昭文選手の話「打たれても冷静に落ち着いてできた。(大橋は)思った以上にパンチも強かったし、巧かった」

●大橋弘政選手の話「出し切って負けたので悔いはない。接近戦でも向こうの位置取りが巧かった。どんな試合でもいから勝ったかった…」



ベルトをもぎ取った下田の腫れた顔も激闘を物語っている

SCORE CARD	
[下田]	1010 9 9 10 9 1010101010 9 116
土川	101010 9 10 9 10101010 9 9 116
村	101010 9 10 9 101010 9 10 9 116
	(12) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)
村	9 9 9 101010 9 9 9 10 9 10 113
川	9 9 1010 9 10 9 9 9 9 1010 113
[大橋]	9 9 1010 9 10 9 9 9 9 9 10 112